

山口情報芸術センター [YCAM]

大友良英 + YCAM 新作展「即興！」

2026年10月17日（土）～2027年3月1日（月）

山口情報芸術センター [YCAM] スタジオA、スタジオB、ホワイエほか

音楽家・大友良英の集大成となる大規模展

新作！ 持田敦子、坂本龍一、Sachiko Mとのコラボレーション作品概要を発表

メディア・テクノロジーを用いた新たな芸術表現の探求と実践を行うアートセンター山口情報芸術センター [YCAM] は、2026年10月17日（土）～2027年3月1日（月）まで大友良英+YCAM 新作展「即興！」を開催します。

大友良英は、フリージャズ、即興演奏、ノイズ音楽、映画音楽など国内外の多彩なシーンで活動し、常に表現の可能性とアンサンブルのあり方を拡張する試みに取り組んできた音楽家の1人です。本展は、大友の創作の基軸であり、アンサンブルの根底にもある「即興」をテーマに、大友とYCAM、そしてさまざまなジャンルのアーティスト5名とのコラボレーションによる新作展です。磯崎新設計によるYCAMの建物の特徴や周囲の環境、そして市民の創造性と呼应しながら多彩な音や存在がぶつかり合い、響き合う、即興の豊かな世界を開いていきます。本展開催に先駆け、大友良英と美術家・青山泰知、エンジニア・伊藤隆之との共作、サウンド・インスタレーション《without records》を7月24日（金）より先行公開しています。本リリースでは開幕レポートとあわせ、10月17日（土）より開催する本展示において、発表される大友と持田敦子、Sachiko Mによる新作、そして坂本龍一へのトリビュートを込めた作品の概要についてご案内します。いずれもYCAMで芸術表現の制作などに特化した研究開発チーム<YCAM InterLab>との共同制作です。



大友良英 + 青山泰知 + 伊藤隆之 《without records》（2008）
撮影：丸尾隆一（YCAM）

山口情報芸術センター [YCAM] 学びと共創課 広報担当
TEL：083-901-2222 / Email：press@ycam.jp

〔プレス問い合わせ〕 広報事務局 担当：鎌倉 [hilo Press 内]
TEL：090-7239-1885 / Email：pr@hilopress.net

◎本展の広報画像は右記URLにアクセス申請してください URL：<https://tinyurl.com/6navadn2>

本展のみどころ

1. 大友良英「即興」の集大成となる大規模展

大友にとって「即興」は、創作の発想の根幹にあるものです。あらかじめ決められたものを再現するのではなく、共演者や聴衆、環境などのさまざまな要素との相互作用により、生成される表現や、コミュニケーションがその基盤となります。本展では、即興演奏家として世界中で活躍し、また、各地でさまざまな人々との協働や祭を手がけてきた大友の実践の集積をインスタレーションとして再構成し、予測不能な現代社会において「即興的」であることの豊かさや可能性を改めて提示します。



展覧会ロゴ「即興！」
デザイン：垂井美穂

2. 美術家・持田敦子とのコラボレーション

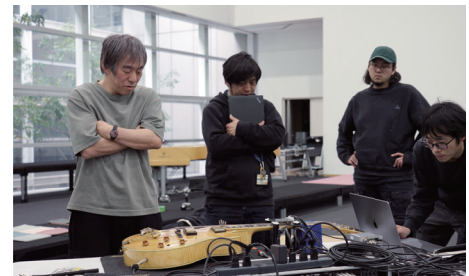
空き家の解体過程に介入し、その場所にある固有の空間と時間をダイナミックに変容する作品で注目を集める美術家・持田敦子。大友の音楽とノイズ、持田の作品が内包する生成と瓦解の相反する要素がぶつかり合い、せめぎあい、そして響き合う、今までにない新しい空間体験が大友と持田のコラボレーションによる新作《Dance》として結実します。



本展に向けた作品制作の様子（2026）
撮影：板倉勇人（YCAM）

3. トリビュート作品 坂本龍一との即興演奏を生成する

YCAM ともゆかりの深い音楽家・坂本龍一と大友は、これまでピアノとギターというシンプルなデュオ編成で多くの即興演奏を行ってきました。大友による坂本へのトリビュートとなる新作《Duo》は、AIなどによる音響解析や再現は一切おこなわずに、ギターとピアノを物理的な仕組みによって鳴らすことで、坂本と大友の即興演奏の特徴を再現。本人たち不在のまま永遠に演奏を生成します。



本展に向けた作品制作の様子（2026）
撮影：青山真也

4. 18年ぶりのYCAMとのコラボレーション

2008年、YCAM全館で開催された「大友良英／ENSEMBLES」展は、市民やアーティストとの「協働」をテーマの一つに掲げました。多様な人々とともに作品を創り上げたこの経験は、大友とYCAMの双方にとって、その後の創造性を大きく広げる契機となりました。以降も国内外の作家と協働を重ねてきたYCAMにおいて、18年の時を経て、再び大友とのコラボレーションが始まります。本展では、自由なクリエイション体制とそれを支え続けるYCAMの建築的な特徴、その双方が持つポテンシャルを「即興」の力によって最大限に引き出します。



本展に向けた作品制作の様子（2026）
撮影：青山真也

音楽家 | 大友良英

ギタリスト/ターンテーブル奏者/作曲家/
映画音楽家/プロデューサー

大友の音楽および演奏スタイルの展開は、時代とともに変化してきた録音・再生技術や、増幅、編集技術の進展と密接に同期してきました。サンプリング、ノイズ、フィードバックなど、従来は「音楽」の枠外とされてきた音響的アプローチを作曲や演奏に取り入れ、それらをひとつの音楽様式の中に共存させることで、大友の音楽は革新を重ねてきました。その一方で、一般の人々との協働や障害のある人たちとのコラボレーション、アジア各国の音楽家とのネットワークづくりなど、これまでの先鋭的な音楽家がやり残していた領域にも果敢に挑戦し、その集大成ともいえるのが2008年にYCAMとの共同で行われた「大友良英／ENSEMBLES」展でした。この展示を大きな契機として東日本大震災以降は、それまでの活動を踏まえつつ被災地での市民との協働の道をさまざまな形で模索、この活動で2012年には芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。また90年代から映画やテレビのサウンドトラック作曲家としての顔をもち、2013年には「あまちゃん」の音楽で日本レコード大賞作曲賞を受賞するなど、ノイズ等の先鋭的な音楽からポップスや映画音楽まで幅広いジャンルを手がけるアーティストです。

大友良英から本展開催に向けてメッセージ

今回の展示のテーマは「即興！」です。

2008年にYCAMと本格的なコラボレーションをおこなった「ENSEMBLES」展は、私の創作において大きなターニングポイントにもなった作品で、多様な人々との「協働＝アンサンブル」が当時の大きなテーマでした。震災やパンデミックを経て、「協働＝アンサンブル」をより豊かなものにするのは「即興」ではないか、そんな思いを強くしています。

私の音楽にとって「即興」は根っこと言えるくらい大切なものですが、多くの創作にとって、もっと言ってしまえば、この先の社会にとっても「即興」はとても重要なもの、根本にあれば社会はより豊かになるもの、そう思うようになりました。

前回の展示から18年の時を経て、私自身の出発点を見つめることになるであろう「即興」をテーマに、YCAMやさまざまな人たちとの新たなアンサンブルを始めたいと思います。

大友良英



大友良英

1959年横浜生まれ。実験的な音楽からジャズやポップスの領域までその作風は多種多様、活動は海外でも大きな注目を集める。また映画やテレビの劇伴作家としても数多くのキャリアを有する。近年は「アンサンブルズ」の名のもとさまざまな人たちとのコラボレーションを軸に展示作品や特殊形態のコンサートを手がけると同時に、一般参加型のプロジェクトにも力をいれている。2005年から「アジア・ミーシング」をスタート。この活動は今日まで続き、音楽を通じたアジアのネットワーク作りに奔走している。震災後は十代を過ぎた福島でプロジェクトを立ち上げ、2012年プロジェクトFUKUSHIMA!の活動で芸術選奨 文部科学大臣賞芸術振興部門を受賞。2013年には『あまちゃん』の音楽でレコード大賞作曲賞他数多くの賞を受賞している。2017年札幌国際芸術祭の芸術監督を、2019年には福島を代表する夏祭り「わらじまつり」改革ディレクターも務めた。また、2005年から活動を共にしている知的障害者と即興演奏家によるグループ「音遊びの会」の著作「即興がつなぐ未来音楽と社会の狭間でおととと」(岩波書店)は、2025年度日本音楽本大賞を受賞している。

<https://otomoyoshihide.com/>

本展公開の3つの新作

大友良英+持田敦子+伊藤隆之+YCAM 新作《Dance》

会場：スタジオA



新作《Dance》制作の様子（2026）

撮影：板倉勇人（YCAM）

YCAMの劇場スペースとして設計されたスタジオAの空間に、木造住宅の解体現場から引き取られた柱や梁を組み上げた巨大な動く構造体を出現させます。空き家を創造的に解体することで、家と人間の関係をダイナミックに変容させてきた持田による構造体が生み出す複雑な動きと生々しい音に、大友が構成した多数のスピーカーや無数の家電から放たれるノイズが混じり合い、変化し続ける空間と音響が一体となって押し寄せます。その迫力ある生成には、一般の市民の力も加わる予定です。世代もジャンルもキャリアも異なる大友と持田は、今回1年以上の対話と試行錯誤を繰り返してきました。予測不能な他者と創造するプロセスを経て立ち上がる作品は、かつてない驚きとユーモアに溢れ、即興のポジティブなメッセージへと変換されます。

持田敦子から本展開催に向けてメッセージ

家は個人と社会の間にある最小単位の社会といえます。その空間や構造を躍動させて、誰もが持つ家に対する感覚をダイナミックに変容させる作品を作ってきました。今回は日本でもハイレベルの設備とスタッフが揃ったYCAMで、普段はできないような規模感で動きのあるパフォーマンスな作品にチャレンジします。不安定な大地の上で、しなやかに踊るような作品を、大友さんといっしょに楽しみながら作っています。

持田敦子（もちだ・あつこ）

美術家

1989年東京都生まれ。長野県在住。2018年バウハウス大学ワイマール大学院、東京藝術大学大学院修了。2018年から2019年にかけて、平成30年度公益財団法人ポーラ美術振興財団在外研修員としてドイツ、シンガポールにて研修。プライベートとパブリックの境界にゆらぎを与えるように、既存の空間や建物に、壁面や階段などの仮設性と異物感の強い要素を挿入し空間の意味や質を変容させることを得意とする。近年の活動に長野県飯田市にて家屋を解体するプロセスを作品化するプロジェクト「解体」（2021-2023）など。

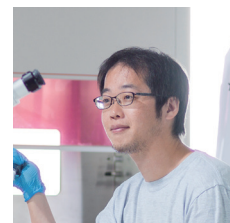


Photo by Pezhman Zahed

伊藤隆之（いとう・たかゆき）

エンジニア

2022年まで山口情報芸術センター[YCAM]でR&Dディレクターとして研究開発プロジェクト全般のディレクションを担当。音響デザインから、システム設計、ソフトウェア開発、バイオテクノロジーと分野を限定せず、作品制作を始めとした数多くのプロジェクトに関わってきた。現在はシビック・クリエイティブ・ベース・東京[CCBT]勤務。



©Gottingham

大友良英＋坂本龍一 新作《Duo》 YCAMとのコラボレーション

会場：スタジオB

中庭越しに外光が差し込む開放的なスタジオBは、YCAM内の他スペースへも視線が抜ける、外部環境と緩やかにつながった空間です。この場所に、自動演奏によって即興デュオを紡ぐピアノとギターを設置します。2010年代に坂本とともに即興演奏をおこなった際の大友の記憶と、坂本の残したピアノの打鍵データ(MIDI)から再現されるピアノの音。そして、本作のためにYCAM InterLabが、大友によるギターの即興演奏の特徴を抽出し、自動演奏する装置を開発。自動演奏でありながらもどこまでも「即興的」であり得る音の形を探しながら、本人たち不在のもとで、永遠に演奏を生成し続ける作品を作り上げます。



新作《Duo》制作の様子(2026)
撮影：板倉勇人(YCAM)

坂本龍一（さかもと・りゅういち）

音楽家

1952年1月17日、東京生まれ。東京藝術大学 大学院修士課程修了。1978年『千のナイフ』でソロデビュー。同年、YMOの結成に参加。1983年に散開後は『音楽図鑑』『BEAUTY』『async』『12』などを発表、革新的なサウンドを追求し続けた姿勢は世界的評価を得た。映画音楽では『戦場のメリークリスマス』で英国アカデミー賞作曲賞を、『ラストエンペラー』でアカデミー賞作曲賞、ゴールデングローブ賞最優秀作曲賞、グラミー賞映画・テレビ音楽賞など多数受賞。『LIFE』、『TIME』などの舞台作品や、韓国や中国での大規模インスタレーション展示など、アート界への越境も積極的におこなった。2024年12月から2025年3月まで東京都現代美術館で開催した国内初の大規模展覧会は、同美術館30年の歴史上、最も多くの動員数を記録した。環境や平和問題への言及も多く、森林保全団体「more trees」を創設。また「東北ユースオーケストラ」を設立して被災地の子どもたちの音楽活動を支援した。2023年3月28日死去。



Photo by Neo Sora ©2020 KAB Inc.

Filament (Sachiko M&大友良英) +YCAM 新作《Filaments Outside》

会場：山口市中央公園、中庭

2008年の「大友良英／ENSEMBLES」展で発表された《filaments》では、閉館後の図書館を見下ろす渡り廊下から、音に耳を傾ける音響体験を生み出しました。今回は、YCAMに隣接する山口市中央公園の芝生と、館内の機能同士を緩やかにつなぐ中庭へと舞台を移します。生活音や環境音に開かれたこれらの場所に配置されるのは、サイン波の電子音と、物理的な仕掛けが奏でる木材や金属の音などです。風に煽られる木々のざわめき、公園に集う人の声、遠くの車の喧騒——その場で聞こえてくるさまざまな音は作品の音と響き合い、その音に呼応する光とともに、来場者一人ひとりに固有の体験を織りなし、その瞬間にしか立ち現れない音像を生み出していきます。

※4月16日発行のプレスリリースから作品のタイトルが変更となりました。

Sachiko M (さちこ・えむ)

サインウェーブ奏者、即興演奏家、作曲家

テスト用の信号音(サインウェーブ)を使った電子楽器を演奏し世界的に活躍する即興音楽家。2003年アルスエレクトロニカ・ゴールドデンニカ賞受賞。サウンドインスタレーション作品発表、写真集出版など活動が多岐にわたる中、NHK連続テレビ小説「あまちゃん」劇中歌の作曲に参加。大友良英とともに手がけた「潮騒のメモリー」で第55回日本レコード大賞作曲賞受賞。以降、作曲、作詞、サウンドプロジェクト・ディレクターなどでも活動。2022年ヨーロッパ演奏ツアーを再始動。インスタレーションのサウンドソースや新作を不定期に配信にてリリース。2025年アパレルブランドDEPAREILLEの秋冬コレクション2025映像の音を担当。2024年、2025年ソロ新作アルバムをリリース。



Photo by Yusuke Watanabe



新作《Filaments Outside》制作の様子(2026)
撮影：青山真也

特別企画

やまぐち秋の盆踊り 2026



「やまぐち秋の盆踊り」の様子(2025)
撮影：山中慎太郎 (Qsyum!)

昨年、やまぐちアートコミュニケータープログラム2025：架空の学校「アルスコーレ」の一環として、市民有志と大友良英、現代音頭作曲家の山中カメラ、ダンサーの福留麻里らと共作した新作盆踊り「やまぐち盆唄」。生演奏に乗せて秋の街を彩る盆踊りを、山口市の秋の風物詩とすべく、地元商店街と協働して2年連続で開催します。会場は山口駅から山口県庁を結ぶ目抜き通りと、アーケードが交わる交差点。日中は子どもを中心とした参加者が楽しむ「こども盆踊り」、夕方から夜にかけて、老若男女、道ゆく人もみんなで楽しむ盆踊りを二部構成で実施。新作盆踊り「やまぐち盆唄」のほか、山口市ゆかりの盆踊り「大内のお殿様」、大友、山中が各地で制作した音頭にあわせて、大きな踊りの輪を広げます。音頭の演奏は、楽器や演奏技術、経験不問で、常にメンバー募集中の市民楽団、山口ゆあーん楽団が担います。

開催日時：2026年10月24日(土) 14:30～20:00

会場：「魔法の屋根」の下(山口市中心商店街)

出演：大友良英、山中カメラ、福留麻里、山口ゆあーん楽団

プログラム：

こども盆踊り 14:30～15:00

盆踊り本番 16:30～20:00(17:30～18:30は休憩)

連携：山口市商店街連合会、山口クラフトマルシェ実行委員会、07サークル・セブン
第3期山口市中心市街地活性化基本計画 アートでつなぐまちの活性化事業

■ アートでつなぐまちの活性化事業

山口市では「第3期山口市中心市街地活性化基本計画」を策定し、『まちを、楽しむ。』を全体のテーマに「居心地が良く歩きたくなるまち」「多様な人々の心が弾むまち」を目指し中心市街地の活性化に向けた取組を進めている。

本事業は、「交流と創造による来街機会の創出」を目的とし、YCAMが持つ知見を活用して来街のきっかけづくりをおこない、まちのにぎわい創出等を図ることで、子どもから大人まで楽しめる中心市街地となることを狙いとしている。

関連イベント

アーティストトーク

2026年10月17日(土) 13:00～14:30

会場：ホワイエ

出演：大友良英、持田敦子、Sachiko M、青山泰知、伊藤隆之

モデレーター：西翼(YCAM)

定員：100名

参加無料 ※要申込

ライブ

Filament with Sakamoto Ryuichi

2026年10月17日(土) 19:30開演

会場：スタジオB

出演：Sachiko M、大友良英

定員：100名

Improvisation with Dance

2026年11月20日(金) 19:30開演

会場：スタジオA

出演：Emilie Škrijelj、Tom Malmendie、大友良英、一楽儀光

定員：100名

I.S.O. ライブ@雪舟庭 Twenty-Three Years On

2026年12月6日(日) 18:30開演

会場：常栄寺雪舟庭(雨天の場合は、常栄寺本堂)

出演：I.S.O. (一楽儀光、Sachiko M、大友良英)

定員：100名

ワークショップ

「即興！」のための準備運動

「即興！」展をより楽しむためのワークショップです。展示作品をモチーフにしたワークを通して、身体を使って遊びながら即興を体験します。

2026年11月21日(土)、12月19日(土)、2027年2月13日(土)

各日 13:00～15:00

定員：各回15名／集合場所：ホワイエ／要入場チケット ※要申込

ギャラリーツアー

キュレーターと巡るツアー

「即興！」展を担当したキュレーターと一緒に展覧会全体を巡ります。

2026年10月18日(日)、11月15日(日)、12月6日(日)、2027年2月27日(土)

各日 13:00～14:00

ナビゲーター：西翼(YCAM)

エンジニアと巡るツアー

YCAMのエンジニアが技術面から「即興！」展の展示作品を解説します。

2026年11月22日(日)、2027年1月24日(日)、2月21日(日)

各日 13:00～14:00

定員：各回15名／集合場所：ホワイエ／要入場チケット ※要申込

■ 申込方法

ウェブサイト：

下記ウェブサイトを用意された申込フォームに必要事項を記入のうえ、お申し込みください。

www.ycam.jp

■ ライブチケット情報《各ライブ共通》

発売日：9月5日(土) 10:00

チケット料金【自由席】：

【単独チケット】

一般	4,000円
any 会員・障がい者割引	3,000円
25 歳以下	2,000円

【3セット券】

一般	10,500円
any 会員・障がい者割引	7,500円

※障がい者割引は障がい者手帳をお持ちの方と介助者1名が対象

※未就学児入場不可

※託児：(「I.S.O. ライブ@雪舟庭」は対象外)

各ライブ開催日の1週間前までに要申込(有料)

※any会員はセット券含め1会員2枚まで

※割引チケットは要証明書

※車椅子席については事前にお問い合わせください

チケット予約：窓口、電話、オンライン

山口市文化振興財団チケットインフォメーション

(山口情報芸術センター[YCAM]内)

TEL: 083-920-6111

(10:00～19:00 火曜休館・祝日の場合は翌日)

<https://www.ycfcp.or.jp/> (24時間受付)

このほか、会期中に特集上映やライブコンサートなどを開催予定です。詳細は特設ウェブサイト、YCAM のウェブサイトにて順次公開します。

開催概要

大友良英+YCAM 新作展「即興！」

2026年10月17日(土)～2027年3月1日(月) 10:00～19:00

※《Filaments Outside》のみ20:00まで

山口情報芸術センター [YCAM] ホワイエ、スタジオA、スタジオB、2階ギャラリー、中庭、山口市中央公園

休館日：火曜日(祝日の場合は翌日、但し9月23日は開館)、9月24日、年末年始(12月29日～1月3日)

参加アーティスト：大友良英、持田敦子、坂本龍一、Sachiko M、青山泰知、伊藤隆之
入場有料(一部無料)

※以下の日時は一部作品の展示を休止または公開時間を短縮します。

《without records》7月25日(土) 12:00～16:00 / 10月17日(土) 13:00～14:30

《Duo》10月17日(土) 18:00までの公開

《Dance》11月20日(金) 18:00までの公開

先行展示

大友良英+青山泰知+伊藤隆之

《without records》

2026年7月24日(金)～10:00～19:00

山口情報芸術センター [YCAM] ホワイエ、2階ギャラリー

入場無料

主催：山口市、公益財団法人山口市文化振興財団

後援：山口市教育委員会

助成：令和8年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業

協力：KAB Inc.

共同開発：YCAM InterLab

企画制作：山口情報芸術センター [YCAM]

キュレーション：西 翼 (YCAM)

SNS Instagram：@otomo_sokkyo

#ハッシュタグ #大友良英即興 #大友良英展 #YCAM

同時開催

Yamaguchi Seasonal 2026

坂本龍一+YCAM Forest Symphony

2026年7月24日(金)～12月6日(日) 10:00～16:30

常栄寺(山口県山口市宮野下2001-1)

入場無料 ※ただし、常栄寺雪舟庭拝観料は別途必要

休場日：火曜日(祝日の場合は翌日) ※これ以外に臨時の休場日がございます。

詳細はYCAMのウェブサイトでご確認ください。

<一般問い合わせ>

山口情報芸術センター[YCAM] 〒753-0075 山口県山口市中国町7-7

TEL: 083-901-2222 / Email: information@ycam.jp / https://www.ycam.jp/

<アクセス>

新幹線「新山口駅」→(JR山口線)「湯田温泉駅」

飛行機「山口宇部空港」→(バス)「新山口駅」→(JR山口線)「湯田温泉駅」

最寄駅「湯田温泉駅」からタクシー5分または徒歩25分

駐車場：161台(無料)

入場料

一般	1,000円
山口市民 / 29歳以下	500円
any 会員 / 18歳以下	無料
障がい者手帳をお持ちの方と介助者1名	無料

※ ホワイエ、中庭、山口市中央公園は無料

特設ウェブサイト

<https://otomo-sokkyo.ycam.jp>



山口情報芸術センター[YCAM]

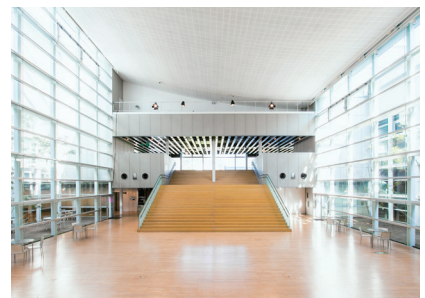


撮影：山中慎太郎 (Qsyum!)

山口情報芸術センター（Yamaguchi Center for Arts and Media）通称「YCAM（ワイカム）」は、山口県山口市にあるアートセンターで、展示空間のほか、映画館、図書館、ワークショップ・スペースなどを併設しています。2003年11月1日の開館以来、メディア・テクノロジーを用いた新しい表現の探求を軸に活動。展覧会や公演、映画上映、子ども向けのワークショップなど、多彩なイベントを開催。市民やさまざまな分野の専門家とともに作り、ともに学ぶことを活動理念としながら、メディア・テクノロジーとの適切な向き合い方、文化基盤としての情報の可能性、さらには人間にとっての情報の意味について、YCAMは幅広いアプローチで探求をおこなっています。

YCAM InterLab とは

YCAMの内部に設置された研究開発チームで、キュレーター、エディター、エンジニア、デザイナーなど、多彩なスキルを持つ常駐スタッフにより構成され、YCAMのさまざまな事業を主導しています。複数の専門分野を横断し市民やアーティスト、研究者、外部のエンジニアたちとともに、コンセプトづくりから作品制作、ワークショップの開発などをおこなっています。これまで坂本龍一をはじめ、近年ではオロン・カッツ（オーストラリア）、ウェンデル・ファン・オルデンボルフ（オランダ）、許家維（台湾）、ホー・ツーニエン（シンガポール）など国内外の数々のアーティストとの協働を実現してきました。



撮影：勝村祐紀



撮影：宮本剛



撮影：勝村祐紀

先行展示レポート

大友良英 + 青山泰知 + 伊藤隆之《without records》

会場：ホワイエ、2 階ギャラリー



大友良英 + 青山泰知 + 伊藤隆之《without records》(2008-2026)
撮影：中村マユ (ToLoLo studio)

7月24日より、大友良英、青山泰知、伊藤隆之によるサウンド・インスタレーション《without records》の先行公開が始まりました。会場となるYCAMの広大なホワイエ（吹き抜け空間）に足を踏み入れると、1階から大階段、そして2階へと続く空間に、整然と並べられた約80台のポータブル・レコードプレイヤーが目に入ります。かつて既製品として流通し、やがてガラクタやジャンク品として見捨てられていたプレイヤーたちが、レコードののっていないターンテーブルを回し、物理的な摩擦や接触不良、あるいは制御できないハウリングといった、個体差のある生々しいノイズを響かせています。レコードをのせずにプレイヤーから聴こえてくる音に耳を澄まし、その特徴を際立たせるためさまざまな人が制作に参加して施された加工。物理的な摩擦や接触、意図せず起こる接触不良や、制御できないハウリングが、それぞれのプレイヤー固有の音となります。この多様な響きを、青山が空間の密度や緩急の流れを計算して緻密に配置。各プレイヤーの音響特性をグループごとに制御するシステムを伊藤が構築しました。さらに大友がランダムネスを交えた即興的な時間構成を施すことで、スマートなデジタル音響とは対極にある、ザラついた物理音が奏でるアンサンブルが立ち現れます。

※《without records》は 10月17日（土）からの本展示でも引き続き公開します。

青山泰知（あおやま・やすとも） 美術家

1960年北海道旭川市生まれ。宮城県仙台市在住。美術家として活動するほかに、ライブ、DJ等の音楽活動も行う。1995年以降、大友良英とのコラボレーションを断続的にこなす。



Photo: ITO TORU

伊藤隆之（いとう・たかゆき） エンジニア

2022年まで山口情報芸術センター[YCAM]でR&Dディレクターとして研究開発プロジェクト全般のディレクションを担当。音響デザインから、システム設計、ソフトウェア開発、バイオテクノロジーと分野を限定せず、作品制作を始めとした数多くのプロジェクトに関わってきた。現在はシビック・クリエイティブ・ベース・東京 [COBT] 勤務。



©Gottingham